

廃棄物減量化で連携

若松市と荒川産業が協定



協定書を交わす室井市長（右）と荒川社長

会津若松市と荒川産業（本社・喜多方市）は、廃棄物の減量化や再生可能エネルギー

（再エネ）の導入を連携して推進する。14日、協定を締結した。

連携では、使用済み小型家電のイベント回収や生ごみの堆肥利

用、再エネの地産地消などに努める。

市役所で室井照平市長が荒川健吉社長と協定書を交わし、「（民間の）知見を生かして、ごみを減らしたい」とあいさつした。荒川社長は「資源の循環型社会の実現につなげたい」と話した。